

# 岩手県の 土地改良



## CONTENTS

- 初春に思う  
岩手県土地改良事業団体連合会会長 及川正和…………… 2
- 新年に当たって  
全国土地改良事業団体連合会会長 二階俊博…………… 3
- “闘う土地改良”の先頭に立って  
都道府県土地改良事業団体連合会会長会議  
顧問 進藤かねひこ…………… 4
- 第38回全国土地改良大会青森大会が開催…………… 5
- 予算の確保に向け決意を新たに…………… 6
- 28年度当初予算確保を強く要請…………… 6
- 経営基盤の整備強化に向けて…………… 7
- 国営猿ヶ石川農業水利事業が完工…………… 7
- 秋元順一氏が農林水産業表彰を受賞…………… 8
- 平成27年度入賞作品が決定…………… 8

2016(1月) No.570

■発行所/岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号  
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

■編集発行人/田山 清 ■印刷所/永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>

「雪原と岩手山」 滝沢市立姥屋敷中学校 鎌田 祐実  
H27年度小中学生による「美しく豊かな村づくり」絵画コンクール 中学校の部 入賞作品





## 初春に思う

# — 輝ける「農政新時代」を拓く農業農村整備 —

岩手県土地改良事業団体連合会  
会長 及川正和

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、不思議な思いがする年であった。県の農業農村整備予算に対し、国費が6割という状況は、これまで聞いたことがない。今まで、農業農村整備事業は、国と地方の深い情報共有、連携のもとに予算が編成され、執行されてきたと思っている。

こうした状況の中、全国土地改良事業団体連合会の会長に、二階俊博氏が就任され、「闘う土地改良」を声高に標榜された。平成22年度に4割以下に削減された予算の復活を図るべく、我々、農業農村整備に関わる者に奮起を求めたものである。と同時に、こうした政策の実現に向け国会へ我々の代表を送るという2本の柱からなる「闘う土地改良」の旗印を掲げている。

この機会を逃しては、予算の復活はあり得ないとも言われており、本会としても、財務省や自民党本部に対し、地方のひっ迫した声を届ける要請活動を行った。これまで東北・北海道土地連絡協議会での要請活動はあるものの、単独としては、初と聞いた。

農業農村整備の実施を求める声が、全国各地から湧き上がったこともあって、27年度補正予算案では、990億円が閣議決定され、28年度当初予算案では232億円の増額となった。

しかし、農業農村整備を安定的、継続的に進める必要があるとして求めた当初予算での1,000億円の増には届かず、29年度予算へ課題の持ち越しとなった。21年度の予算水準へ戻すために、再度、農業農村整備に携わる者の総力を挙げた姿勢を示す必要がある。まさに、今年の選挙において、いかに我々が予算不足を真剣な課題として捉えているか、そして、地方がいかに農業農村整備予算を必要としているかを、力の結集によって示す必要がある。

この力の結集においては、若い皆さんの理解と行動が不可欠である。今、若い人々の政治離れ、投票離れが顕著である。加えて、職場や団体の幹部の言動が選挙行動にもたらす影響力が弱まっていることは、すでに明らかである。

農業従事者の減少・高齢化の一層の進行やTPPの大筋合意に備える農地の整備、あるいは、老朽化の進行や集中豪雨の多発に備える水利施設の整備が急がれている。あるいは、日本人のコメ離れに対応した畑作の強化など時間の経過とともに、農業農村整備のニーズは変わりつつもその対処を常に求められている。若い皆さんの理解が大前提である。

先般発表されたセンサスでは、この5年間で農業従事者が2割減少したと言われている。日本の農業生産額が総生産額に占める割合は、既に微々たるものとなってしまったが、多くの国民が農村部に居住しており、本県においては、農業生産における地域経済への影響はたいへん大きいものがある。

余談であるが、昨年末に中国の水利施設と農村の状況を垣間見る機会を与えられた。2億トンを貯めるダムも水路橋も近代的で立派な施設であった。

しかし、ここ2年間は降雨量が少なく、貯留した水は、都市部への上水として送られ、農地にはかん水されていないという説明を受けた。

農地は、河川沿いの狭い範囲に、水田が見られるものの、川から離れた水路に沿った畦畔のある農地は畑作でトウモロコシが主体であった。

農村では、周囲の風景に対し違和感のある真新しい黄色のスクールバスが子供たちを乗せて走っているものの、夕方になっても、灯りのついた家は少なく、煙が上がる家もわずかで、静かというよりは寂しいという印象である。

工業分野での経済成長が重視され、都市部偏重によって、農業生産、農村は二の次にされているのではないかと思えた。

「農は国の基」と言われるが、農業・農村の振興なくして地方の再生、発展は在り得ず、農業農村整備はまさにその基盤をなすものである。

今、TPP大筋合意を受け、日本の農政は「農政新時代」と言われる新たなステージに立とうとしている。初春を迎え、農業農村整備が日本の食の未来を形作り、安定供給を盤石なものとする輝ける「農政新時代」を拓いていくことを祈っている。



## 新年に当たって

全国土地改良事業団体連合会  
会長 二階 俊博

平成28年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進にご尽力をいただいている皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年、当会の会長に就任しましてから、関係者の皆様のご支援を受けながら、これまで事業の推進に尽力して参りました。とりわけ、会長就任時には民主党政権時代に7割近く削減された状況であった予算を、まずは復活させようと、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。各都道府県連合会からは、財源不足による事業の停滞に対し、悲鳴が上がっておりましたし、1日も早く予算確保を訴える声が届いておりました。このため「闘う土地改良」を旗印に、真剣な取り組みを訴えて参りました。おかげさまで、昨年末には平成27年度補正予算と同28年度予算とで総額4,810億円を政府予算編成案において確保することができました。

私は、皆様の要望を実現するためには、いつまでも下を向いているのではなく、本会として具体的な行動を起こすことが重要である旨申し上げ、次期参議院選挙には候補者を打ち立てて、明確な意思を表明することが重要であると申しました。おかげさまで、農林水産省から進藤金日子君が現職課長を辞して立候補することとなりました。彼は秋田県の農村出身で、土地改良に熱い思いを持っており、是非、土地改良のために頑張りたいと積極的に活動してくれています。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

さらには、昨年TPP交渉が大筋合意されたことを受けて、「総合的なTPP関連政策大綱」が決定されましたが、私は農業農村の振興に、支障を来さないように努力をしていかなければならないと思っております。

我々水土里ネット関係者としましては、このような現状をしっかりと受け止め、積極的に役割を果たしていくことが重要と考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力も必要と考えます。幸いにして、農地を集積し、経営規模を拡大することにより、新たな農業経営を展開するべく全国各地で志の高い取り組みが見られるようになってきております。

土地改良は、農業農村の整備や振興を通じて国土を維持し、発展させることを目的としております。そのためには、自分達の生活は必ずや自らが守り発展させていくという気構えが不可欠です。それを、我々の先人達が時々の時代背景の中で繰り返し最大限努めてきたことだと思っております。現代に生きる我々が手をこまねていることは決して許されることではありません。私は全国の土地改良関係者の皆様の協力をいただきながら、ひき続き予算の獲得や参議院選挙の勝利に向け真剣に闘う決意を新たにいたしました。

本日、輝かしい年の初めに当たり、本年が全国の皆様にとってよき年でありますように、ご健勝とご発展を祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。



## “闘う土地改良”の先頭に立って

都道府県土地改良事業団体連合会会長会議  
顧問 進藤 かねひこ

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、昨春、新しく全国土地改良事業団体連合会会長に就任された二階俊博先生が提唱された「闘う土地改良」に込められた真義に感銘し、また触発され、政治活動の途を志す決意を固め、昭和61年に入省以来、29年間勤めてきた農林水産省を昨年6月、中山間地域振興課長を最後に辞職しました。

その後、7月29日に都道府県土地改良事業団体連合会会長会議（全国水土里ネット会長会議）顧問を仰せつかり、全国各地を回り、その実情を聞かせて頂きました。移動した距離は約30万km、日本の農業水路の総延長約40万km（地球10周分）の4分の3に達しました。全国を巡回する中で、我が国の国土には人間の体でいうと動脈と静脈にあたる農業用水路・排水路が隅々まで張り巡らされ、肉体にあたる450万haの農地と一体になって国民の食料を支えており、多面的機能の適切な発揮を通じて、まさに日本の国土を支えていることを改めて実感した次第です。

そして、様々な課題も聞かせて頂きました。農業・農村の現場で聞く声は本当に切実で、心に響きました。過去・現在・将来とも国民の食料を支える農地と水、それを可能としている土地改良は「日本の命綱」であります。その命綱が切れそうになっていることに強い危機感を禁じ得ません。

全国各地を回り始めてから約4か月経た時点で、私なりに全国の声を集約し、全国水土里ネット会長会議に報告しました。そして、その報告した内容を私に課せられた5つの使命として承り、その使命を果たすため全身全霊で取り組んでまいります。

1. 土地改良の予算確保に全力
2. 日本型直接支払制度の充実に全力
3. 災害に強い農山漁村づくりに全力
4. 自然豊かな美しい農山漁村の継承に全力
5. 農業と農山漁村への国民の理解に全力

この「5つの全力」を通じて、「安全で安心な食」、「大切な農地と水」、「美しい農山漁村」、この3つを守り抜くことを約束します。

先程、「農業水路の4分の3を回った」と申し上げましたが、農業水路は単なる土木構造物でなく、農地を拓き水を引いた先人の辛苦の賜物であり、多くの関係する方々の思いが詰まった地域の文化財的なものではないかと感じています。今後は、農地や農業水路にこもる先人の不屈の魂に思いを馳せながら、更に各地域を毛細血管の部分まで含めて可能な限り訪れたいと思います。そして、貴県の取り組みも十分勉強させて頂きながら、農業・農村の現場と行政・国政の場とのキャッチボールを主導し、自らがそのボールとなって粘り強く両方の「場」を往復できるように、果敢な中にも謙虚に自己を研鑽し、更に幅広く深く政治活動を前に進める覚悟です。

最後に、今年は、土地改良にとって剣ヶ峰と言ってよい程の大きな節目の年となります。私は、幅広い国民の皆さんのご理解と土地改良に関わる私たちの結束を源泉として、「闘う土地改良」の先頭に立って全力疾走することを改めてお誓いします。

本年が皆様お一人おひとりにとって良き年となることを祈念し、私の年頭のご挨拶と致します。

# 第38回全国土地改良大会青森大会が開催

## —『土地改良の路繋ぎ 明日への確かな途拓く』をテーマに—

全国土地改良大会青森大会が10月15日に青森市のマエダアリーナにおいて開催された。『土地改良の路繋ぎ明日への確かな途拓く』を大会テーマに、伊東良孝農林水産副大臣をはじめ、全国の水土里ネットなどから約3,500人が参加し、大会を盛り上げた。

開催にあたり主催者である二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長が、「全国各地で日々、農業農村整備の推進にご尽力を頂いている方々の多数ご参集に感謝申し上げます。昨今の農業農村を巡っては高齢化社会や本格的な人口減少社会の到来により、急速な衰退が懸念され、中でも農業農村の振興は地方創生にはなくてはならない大きな課題となっている。このため、政府におかれては“骨太の方針”や“日本再興戦略”において『土地改良の一層の推進』が謳われ、土地改良の重要性を再認識していただいている。現在、来年度の予算編成作業が進められ、28年度農業農村整備の概算要求は昨年度と比べ1,000億円増額要求をしていただいた。今後も『闘う土地改良』を方針に掲げ、皆様と共に取り組んで参りたい」と挨拶した。



【挨拶する二階会長】

土地改良功績者表彰では、農林水産大臣賞6名、農村振興局長表彰15名、全国土地改良事業団体連合会会長表彰45名が受賞した。本県からは黒澤金一方井土地改良区理事長が農林水産大臣表彰を、また、小田島峰雄猿ヶ石北部土地改良区理事長（本会総括監事）が全国土地改良事業団体連合会会長表彰をそれぞれ受賞された。受賞式では黒澤理事長が登壇し、伊東副大臣から表彰状と記念品が授与された。

基調報告では、進藤かねひこ全国水土里ネット会長会議顧問を聞き手とし、東日本大震災津波によって特に被害の大きかった岩手県、宮城県、福島県の各土地改良事業団体連合会から『東日本大震災、その後の新たな芽生え』と題



【農林水産大臣表彰を受賞した黒澤理事長（中央）】

し、被災及び復旧状況の報告が行われた。岩手県からは田山清本会専務理事が、陸前高田市広田地区の被災状況、営農再開させた地区の取組、収穫された米を利用した『工房めぐ海』による6次産業の活動内容、被災地の今後の展望などを報告した。また、これまでの全国からのご支援に対してお礼を述べ、引き続きのご支援をお願いし発表を終えた。



【聞き手役の進藤顧問】



【基調報告を行う田山専務理事】

大会の締めくくりに、青森県営農大学校の在校生と卒業生4名が、大会宣言を力強く朗読し、満場の拍手で採択され閉幕した。

## 予算確保に向け決意を新たに

— 『農業農村整備の集い』が開催 —

11月27日、全国土地改良事業団体連合会は、平成28年度農業農村整備事業関係当初予算の確保と、本年度の追加的な予算措置の実現に向けて全国から約830名の参集のもと、『農業農村整備の集い』を開催した。

開会にあたり二階俊博全土連会長は、「補正予算や来年の予算確保に、全力を尽くして期待に応えなければならない。農林水産省におかれては、1,000億円の増額要求を行なっていただいていることは大変嬉しく思う。“闘う土地改良”は予算と参議院選挙であり、皆様のお力添え、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます」と力強く挨拶した。

続いて、森山裕農林水産大臣は「農地と農業施



【祝辞を述べる森山大臣】

設がしっかりと整備されてはじめて強い農業と美しく活力ある農村が実現できる。そのためにも現在、平成28年度概算要求において大幅な増額要求をさせていただいており、二階会長をはじめ、皆様のお力を頂きながら概算決定に向け最大限の予算確保に努めていく」と祝辞を述べた。

その後『状況報告』と題し、進藤かねひこ全国水土里ネット会長会議顧問が、農業農村整備における地域の現状と課題を報告した。

おわりに要請案文朗読では、7項目を力強く読み上げ、全会一致で採択し、参加者一同によるガンバロウ三唱で閉会した。



【挨拶する二階全土連会長】

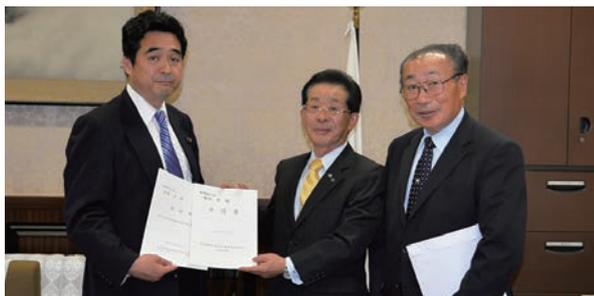
## 28年度当初予算確保を強く要請

— 財務省、農林水産省、自民党本部へ要請を実施 —

本会では、11月9、10日に及川正和会長と菊池勲副会長が、財務省、農林水産省へ『平成28年度農業農村整備予算に関する要請』として要請活動を行った。

今回は『農業競争力の強化や国土強靱化を図る農業農村整備予算の平成28年度当初予算を十分に確保すること』、『環太平洋経済連携協定(TPP)の大筋合意が、農業者の生産意欲に影響を及ぼすことのないよう万全の対策を講じること』の2項目について要請した。

財務省では、坂井学財務副大臣と高村泰夫主計



【坂井財務副大臣(左)に要請書を手渡す及川会長(中央)と菊池副会長(右)】



【佐藤農林水産大臣政務官(左から2人目)に要請書を手渡す及川会長(右)、伊藤技監(左)、藤原議員(右から2人目)】

官に面会し、坂井大臣から「施設の老朽化で新たな投資が必要なことを認識している。できる限りご希望に添えるよう頑張っていく」との力強いコメントを頂いた。

農林水産省では、藤原崇衆議院議員が同席のもと、伊藤千一岩手県農村整備担当技監とともに、佐藤英道農林水産大臣政務官と室本隆司農村振興局次長へ面会した。

佐藤政務官から「予算の復活には、大変な力が必要であるが、要請頂いたことを受け止め、概算決定までしっかりやっていく」との回答を頂いた。

## 経営基盤の整備強化に向けて — 照井・束稲土地改良区合併予備契約調印式 —

照井土地改良区（阿部克郎理事長）と束稲土地改良区（浅利公治理事長）は10月13日、『ベリーノホテル一関』において、合併予備契約調印式を開催し、2土地改良区の役員、岩手県の関係者ら約30人が出席した。

式では、阿部、浅利両理事長と、立会人として堀江淳県南広域振興局長、長田仁一関市副市長、青木幸保平泉町長、及川正和本会会長の6名が合併予備契約書に署名を行った。

式辞では、阿部理事長が「合併する新たな土地改良区は、現場の生産性を高めてみなさんと共に夢のある農村地域を実現するため、休むことなく改革に取り組んでいく」と述べた。

続いて、堀江県南広域振興局長が「土地改良区の安定的な運営を図るため、関係者と連携し将来を見据えて話し合いを重ねられ、このたび契約の調印に至ったことに対し、敬意を表す



【堅い握手を交わす阿部、浅利両理事長と立会人】

る」と述べた。

合併後は、受益面積1,922ha、組合員数2,310名となり、農業情勢に対応できる土地改良区を目指し、経営基盤の整備強化が図られる。

## 国営猿ヶ石川農業水利事業が完工 — 活力ある農村の構築に期待 —

11月13日、平成20年度に着工した国営猿ヶ石川農業水利事業が今年度、完了したのを受け東北農政局をはじめとする関係団体は、完工式や記念碑除幕式、祝賀会など一連の行事を花巻市東和町のパレスまほろば他で執り行い、完工を祝った。

完工式には関係者ら約100名が出席し、豊田育郎東北農政局長が「完工を機に、持続的で力強い農業の実現と、水利施設を地域共有の財産として利用されることを望みたい」と式辞を述べた。

続いて、達増拓也岩手県知事代理の堀江淳県南広域振興局長をはじめ、藤原崇衆議院議員、平野達男参議院議員、関係市長らが祝辞を述べた。また、受益者を代表して小田島峰雄猿ヶ石北部土地改良区理事長が「事業の完了によって、再び土地改良施設の機能が回復するとともに、一元管理方式による効率的な用水の供給と維持管理の合理化が図られた。この基盤を活かしながら希望の持てる強い農業と、活力ある農村の構築に邁進したい」と謝辞を述べた。



【謝辞を述べる小田島理事長】

田瀬ダムの完成と並行して、昭和28年に始まった国営猿ヶ石川土地改良事業を皮切りに、昭和34年からの開拓事業、同50年からの施設整備事業（1期、2期）へと続いてきた国営事業も今回の猿ヶ石川農業水利事業をもって一区切りを迎える。

今後、整備された基盤を活かした営農の展開が期待される。

# 秋元順一氏が農林水産業表彰を受賞

— いわて農林水産躍進大会にて —

12月22日に岩手県民会館で開催された、いわて農林水産躍進大会(主催:いわて農林水産振興協議会、岩手県)において、秋元順一九戸村土地改良区前理事長が『岩手県農林水産業表彰』を受賞した。



【左から、県農林水産部 伊藤農村建設課総括課長、同 伊藤技監、秋元前理事長、本会 及川会長、岩手県多面的機能支払推進協議会 田山会長】

この賞は、永年にわたり農林水産業に関する団体の運営、協同組織の育成、技術の向上発展に尽力した方が表彰されるもので、本年度は秋元氏を含む4名が受賞した。

このほか、『岩手県アドプト活動モデル賞』並びに『岩手県農地・水環境保全向上活動モデル賞』の授与が行われ、県内各地から参集した農業関係者約900名から盛大な拍手が贈られていた。

## ●アドプト活動モデル賞

受賞団体	関係市町村
(実施団体) 太田小学校PTA (協定団体) 鹿妻穴堰土地改良区	盛岡市
(実施団体) 金成開田をきれいにする会 (協定団体) 金成土地改良区	陸前高田市

## ●農地・水環境保全向上活動モデル賞

受賞団体	関係市町村
小久慈地区環境資源保全推進協議会	久慈市
日花里保全振興会	一関市
上海上集落	二戸市

# 平成27年度入賞作品が決定

— 絵画・写真コンクール —

本会が主催する平成27年度小中学生による「美しく豊かな村づくり」絵画コンクール並びに「農村景観」写真コンクールの審査委員会が11月18日、本会にて開催され絵画・写真併せて

219点の応募の中から、絵画32点、写真10点の計42点が入賞した。

入賞作品は本会のホームページ(<http://www.iwatochi.com>)に掲載している。

【絵画 金賞受賞作品】

### ●小学校低学年の部



「おたまじゃくしをつかまえた」  
岩手町立水堀小学校2年 中居亜海

### ●小学校中学年の部



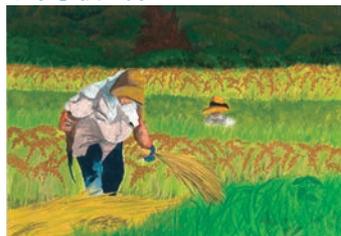
「アジサイのかけにカタツムリ」  
花巻市立太田小学校4年 小原映真

### ●小学校高学年の部



「田植えをがんばるおじいさんとおばあさん」  
花巻市立太田小学校5年 平賀翔太郎

### ●中学校の部



「稲刈り」  
大船渡市立第一中学校2年 佐々木歩実

【写真 最優秀賞受賞作品】

### ●風景部門



「生き返った田園」  
平宏之進

### ●人物部門



「ずっしり ぼくが刈ったよ」  
長谷川亜希子